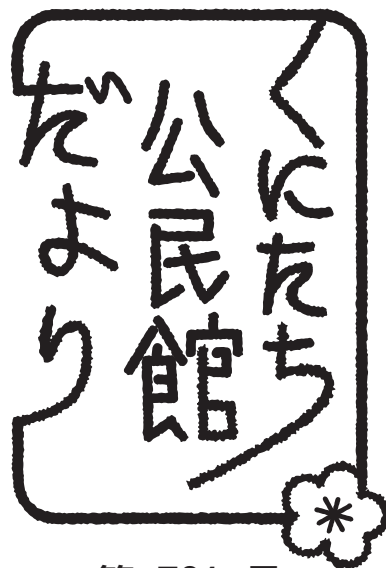


～【社会教育学習会】開催報告と次回開催案内～

# みんなで話そうこれからの公民館

公民館では、15名の委員からなる「公民館運営審議会」（公運審）が毎月活動し、公民館事業などについて審議しています。去る3月18日（土）、公運審の担当委員と公民館の共同企画で、市民のみなさんとコロナ禍の公民館をふり返り、公民館の未来を考える【社会教育学習会】を開催しました。次回【社会教育学習会】のご案内とともに、当日の様子を担当委員が報告します。



第 761 号

2023年 7月 5日

(令和 5年)

「くにたち公民館だより」  
ホームページの QR コード ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

## 今月の公民館 (7月～8月)

- 13日(木) 夜 ブッククラブ 佐藤泰志  
『きみの鳥はうたえる』
- 15日(土) 昼 食文化講座 「食から世界を考える」
- 23日(日) 昼 シネボックス 『キング・コング』
- 23日(日) 昼～ はじめての銅版画
- 29日(土) 朝 男性の料理入門「親子でそうめん！」
- 29日(土) 昼 共生社会のマナビ  
「共に学ぶメンタルヘルスとリカバリー」
- 8月5日(土) 昼～ 青年講座 「初心者 山部」
- 6日(日) 昼 図書館のつどい「旅と本と詩と」
- 19日(土) 朝 親子で遊ぼう・考えよう  
「プラネタリウムで星を見よう！」
- 24日(木) 夜 社会教育学習会  
「公民館の“ハテナ？”を解き明かす」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。



公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

公民館の状況▲

「コロナ禍」という正解のない問題に直面してから3年が過ぎました。人の命と、人が集うことの意味を一人一人が考えた年月でもありました。これを緊急時の地域の課題として、公民館は、そして私たちは、どう向き合ってきたのでしょうか。

今回の社会教育学習会では、「コロナ禍の公民館と私たち」をテーマにこれからの公民館について自由に意見を交換し合うことを目指しました。会場は公民館地下ホール、参加者は28名でした。

第1部 第33期公運審 (2020.11～2022.10) 委員による報告

第33期公運審委員をつとめた江頭晃子さんより、コロナ禍での公民館の対応と答申策定の過程について報告がありました。

緊急事態宣言下、市・教育委員会・公民館が行った主催事業の中

止や休館などの対応は適切だったのか、これを未来に向けて検証するため、2021年5月に館長より公運審へ「新型コロナウイルス感染症拡大時における教育機関としての公民館事業について」の諮問が出されました。

これを受け、公運審では公運審委員15名が、記録班、アンケート班、社会教育学習班、検証・提言班に分かれて活動を開始。2020年4月から5月の休館の意味、その決定過程と公運審の役割、市民の学習権保障のあるべき形、情報発信の手立てと弱者への配慮、生存権と学習権の拮抗などの問題意識のもと、「公民館の役割」「居場所の重要性」などの視点から討議をかさねた経緯が説明されました。答申策定の一環として、2021年12月18日には、社会教育学習会「コロナ禍における学びとつながり」公民館の役割と期待する

こと」を開催。公民館を利用する市民団体と公民館職員がパネリストとして参加し、困難のなかにあっても学び、つながり続ける意味などが確認されました。

市民や市民団体、職員等へのアンケートやヒアリングも実施し、多様な声をとりとまとめながら、2022年10月11日、答申を提出。

学習権を「生きる権利」の実現に不可欠なものにとらえ、公運審が緊急時にも公民館の民主的運営の実現に役割を果たすことが求められるとし、「市民とともに」「教育機関として」「緊急時」の3つの視点から10の提言を行ったことが報告されました。

次に、コーディネーターの江頭



パネリストから答申への思いが伝えられました

さんのもと、パネラーとして第33期委員3名、末光翔さん、隈井裕之さん、木島香織さんによるクロストークが行われ、答申策定に至るそれぞれの思い、そして今後の課題が共有されました。この課題は第2部に引き継がれます。

第2部 ワールドカフェ(意見交換会)

参加者全員が5〜6名ずつに分かれて、テーブルAからEの席につき自己紹介。ワールドカフェ形式のリラックスした雰囲気の中で、テーブルごとに与えられたテーマについての意見交換が進み、メンバー変更をして2回のセッションの後、各テーブルの代表的意見を発表しました(主な意見をまとめた下表を参照)。

第3部 まとめの時間

最後に、登壇した第33期公運審委員から、学習会のまよめの言葉がありました。「多様な世代が集まり、率直に話し合えて様々な意見にふれることができた」「公民館は学びを享受するだけでなく、権利としての意識や価値観を共有し、民主主義を鍛え、根付かせるための場」「公民館は、時間と手間をかけたねばり強い作業で関係性を少しずつつくって、差異を尊重しながら、みんなで大変なことがなにかをみつめる場」など、今後への期待が込められた言葉が続きました。

会をふり返って

参加者のアンケートでは、「多くの人の意見を聞き、自らも話していく過程自体が学びであり、民

主主義の実践だった」「みんなが話そうというタイトルが良かった」「市民、職員、すべての人の対面会話は公民館の原点」「公民館の利用、参加への高い壁を乗り越える気づきを試行錯誤しながら考えていくが必要」「若い人の参加が多かったのが心強かった」など、感想や要望、提案が寄せられました。

企画者としても、参加者がこれからの公民館の可能性を考える良い機会となったと感じています。一方、参加者が広がらなかったことを課題と捉えています。これらを発展的に捉えて次の学習会へとつなげて行きたいと思っています。  
(文責：第34期公運審社会教育学習会担当)



グループワークでざっくばらんに意見交換

← 次のページに次回の案内を載せています。ぜひご参加ください。

ワールドカフェ(意見交換会)のまよめ

テーブル	テーマ	出された主な意見
A	コロナ禍を経て、今後に生かしたい視点とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアやソーシャルワークなど、世代を問わず地元と関わりあってきた参加者の経験を語るなかから、多世代のつながりの重要性和そこから生まれる公民館の可能性が言及された。</li> <li>・ コロナ禍でオンライン授業になった学生は余白時間が増えたが、一方言葉を介さないコミュニケーションや評価されないコミュニティ、居場所の大切さに気づいた。</li> <li>・ 若い世代の持つ興味関心をつかみ、巻き込んでいく講座や企画の実施が重要。</li> </ul>
B	参加しない/できない人(困難を抱える人など)に学びを届けるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館の講座や活動に、参加しない・できない理由は、「常連の人が多い」「敷居が高い」「係や当番が面倒」等の公民館への偏ったイメージや、「時間がない」「オンライン参加の選択肢が少ない」「(外国人にとっては)言葉の壁」等の問題があるのではないかと。</li> <li>・ 学びを届けるために、講座のアーカイブ化、SNS やネット、日本語サポートの活用等のほか、未来へむけてオンライン・コミュニティやサテライト機能を持つ公民館等の可能性も話し合った。</li> <li>・ ふらっと一人でも学習できる"居場所"としての公民館の機能の必要性も確認した。</li> </ul>
C	公運審委員や公民館職員にこの機会にきいてみたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍で公民館の運営を決定していくときに「生存権」と「学習権」の二つの権利のせめぎあいではなかったのか。</li> <li>・ 公民館職員には専門職員としてより長く勤めてもらいたい、職員の仕事の増加への対策や、会計年度任用職員の待遇改善が重要ではないか。現状はどうなっているか見えにくい。</li> </ul>
D	老朽化する施設・設備のリノベーションに向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の外観に「公民館」とわかる印象的な表示がなく、館内の展示スペースや動線がわかりにくいことが、市民の利用のハードルを上げているのではと懸念される。</li> <li>・ 設計当初に「いつでも、だれでも利用しやすい」ことが目指された経緯はあるが、入りやすさ・親しみやすさと防犯安全管理を両立できるような、またコロナ禍を経ての衛生管理もできるような、「市民による市民のための」改善計画を望みたい。</li> </ul>
E	話し合いテーマ自由(なんでもあり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所や時間の制約にとらわれない公民館も考えられないかとの視点から、主にオンラインについて議論した。</li> <li>・ オンラインと対面、それぞれのコミュニケーションのとりやすさは、社会環境や教育の結果なのではないか。</li> <li>・ 公民館のオンライン化の充実、市民側の ICT スキルを高める取り組みなどに、社会的な環境整備や経済的支援が必要。</li> </ul>

# 〈真夏の夜の公民館ツアー〉 公民館の“ハテナ？”を解き明かす ～素朴なギモンを聴いてみよう！～

水先案内人(講師) 青山 鉄兵(文教大学・社会教育学)

「公民館って、どんなことができるんですか？」  
日頃から公民館の会場を利用している方、講座に参加したことがある方はよく知っているけども、「実は行ったことがない」という方も多いのではないのでしょうか。

公民館は、誰もが利用できる社会教育施設で、より良い施設や事業づくりのために市民が意見を出しあい、みんなで学びをつくる「民主主義の学校」だと言われてきました。それでもよくわからない「そもそも公民館の“公民”てなに？」「公民館と地域の集会所はなにが違うの？」「公民館だよりの端っこに書いてある“学習権”てなに？」「生涯学習と社会教育の違いがわかりません」といった素朴なギモンの数々。

今回の会では、数ある公民館の“ハテナ？”を講師にぶつけながら、もっと生活や人生を豊かにする「公民館の使

い方」や「より良い公民館のあり方」などをみんなで考えたいと思います。ぜひお気軽にご参加ください。

\*この会は公民館運営審議会社会教育学習会担当委員との共同企画です。

と き 8月24日(木)夜7時～9時  
※希望者のみ夜6時半から公民館見学会あり(申込時に要申込)

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 7月14日(金)朝9時～8月22日(火)夕5時までの間に電話か右のQRコードよりお申し込みください。  
公民館☎(572)5141



## 〈親子で遊ぼう・考えよう〉 フラネタリウムで星を見よう！

桐朋中学・高等学校のプラネタリウムを使って、四季折々の星座のお話をさせていただきます。天気が良ければ大きな天体望遠鏡や太陽観測の望遠鏡も見学できます。

お 話 上原 隼(桐朋中学・高等学校教諭)  
桐朋中学・高等学校地学部員

と き 8月19日(土)朝10時～11時半

ところ 桐朋中学・高等学校 教科教室棟(4階)  
※入口は北門(桐朋学園通り)です

用 意 上履き、靴袋をお持ちください。(土足厳禁です)

対 象 子ども(3歳以上)と保護者(市内在住者のみ)

定 員 25組(1組3名まで)※応募者多数の場合抽選

申込先 7月10日(月)朝9時～17日(月)夜9時までの間に、右QRコードのメールフォームに応募情報を記入し、送信ください。  
※抽選結果は7月20日(木)までに連絡します。



## 〈男性の料理入門〉 ～いつものめんつゆに一工夫～ 親子でそうめん！

講師 北川 みどり(管理栄養士)

普段家事をする機会が少ない男性の料理入門として、親子で一緒に、夏休みのお昼ご飯を作ってみましょう。

夏の定番料理のそうめんですが、今回はめんつゆにちょっと手を加えて、中華・豆乳・おろしトマトの3種類を作ります。いろいろな具と薬味を添えて楽しく食べましょう。デザートにかぼちゃ団子も作ります。

と き 7月29日(土)朝10時～昼1時

ところ 福祉会館 3階料理講座室

定 員 親子8組(お祖父さんも可)  
※応募者多数の場合抽選  
※市内在住・在学・在勤の方優先

費 用 1組(子ども1人まで)1,400円  
(子ども2人まで)1,500円  
(子ども3人まで)1,600円  
※7月21日(金)までに公民館へお支払いください(受付時間:月曜日以外の朝9時～夕5時)。



持ち物 エプロン、三角巾(タオル可)、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)、ふきん2枚(台ふき用、皿ふき用)

申込先 7月7日(金)朝9時～10日(月)夜9時までの間に、右QRコードのメールフォームに応募情報を記入し、送信ください。  
※抽選結果は7月14日(金)までに連絡します。



## 〈くにたちブッククラブ 記憶の欠片をひろい集めて〉 佐藤泰志「きみの鳥はうたえる」(河出文庫)

講師 大木 志門(東海大学・日本近代文学)

と き 7月13日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 地下ホール

定 員 30名(申込先着順)

申込先 公民館☎(572)5141

\*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。



監督 メリアン・C・クーパー  
アーネスト・B・シュードサック  
特殊効果 ウィリス・H・オブライエン  
出演 フェイ・レイ、ロバート・アームストロング ほか



今なお世界で最も愛されているモンスター、キング・コングを生み出し、世界中の観客を驚嘆させた特撮映画の原点にして最高峰の古典的名作。多くの映画人に影響を与えたその特殊効果技術は、今見ても鮮烈な輝きを放っている。この作品無くして『ゴジラ』も『ジュラシック・パーク』も生まれることはなかった!

と き 7月23日(日) 昼2時～(開場昼1時)  
ところ 公民館 地下ホール  
定 員 70名(申込先着順)  
申込先 7月11日(火)朝9時～  
公民館☎(572) 5 1 4 1  
\*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込みください。  
\*換気のため、途中で10分程度休憩を設けます。ご了承ください。

〈青年講座〉**初心者 山部**  
～山登り、初めの一步を踏み出そう～

講師 林 雄三 (青年室スタッフ)

山に登ってみたいけれどどうすれば良いのだろうか……、ひとりでは勇気が出ないから一緒に行ける仲間がほしい……。

「初心者山部」は、そんな若者のための講座です!



みんなで「山」のポーズ!?

1回目の座学では、登山に必要な装備や心得をレクチャーします。2回目は、座学の時にみんなで決めた近郊の緩やかな山に登ります。

汗をかきながら登った山頂ではきっと、体験したことのない爽快感が待っています。山登りの初めの一步を、一緒に踏み出してみませんか?

1回目 8月5日(土) 昼2時～4時 座学  
2回目 秋頃(※1回目に決定) 朝9時～5時頃 登山

ところ 公民館 3階講座室  
対象 高校生～30歳代くらいの方まで  
定 員 10名(申込先着順)  
申込先 7月14日(金)朝9時～ 公民館☎(572) 5 1 4 1



〈共生社会のマナビ〉  
**共に学ぶメンタルヘルスとリカバリー**  
～「充実した人生」と「対話」～

講師 飯野 雄治 (リカバリーの学校 調布校) ほか  
ファシリテーター 「リカバリーの学校@くにたち」  
のみなさん

生きてると楽しいこともあります。つらいこと、悲しいことも避けられません。精神疾患になったり、こころが折れそうになったりすることは他人事でなく、また恥ずかしいことではないと思えるような社会をつくるのが求められています。

今年度、国立市で「リカバリーの学校@くにたち」というプロジェクトが始まります。この「リカバリーの学校」では、生きづらさや困難を抱える当事者をはじめ、支援者やご家族、興味がある方、どなたでも参加できる場づくりが目指されています。自分自身や身近な人のこころの健康や共生のために、「充実した人生」と「対話」について考えます。調布市で「リカバリーの学校」を主宰する飯野さんや当事者の方のお話などを通じた「対話」から学びたいと思います。

〈飯野さんの著書〉  
『リカバリーの学校の教科書』(共編著、EDITEX) ほか

と き 7月29日(土) 昼2時～4時  
ところ 公民館 地下ホール 定 員 40名(申込先着順)  
対 象 生きづらさや困難を抱える当事者、支援者やご家族、そのほか興味がある方、どなたでも  
申込先 7月7日(金)朝9時～ 公民館☎(572) 5 1 4 1

〈図書室のつどい〉  
**旅と本と詩と**

お 話 菅 啓次郎 (詩人、明治大学)

本を読みたい。けれど、時間が無い。買ったのは良いけれど、「積読」になる。きちんと向き合おうとすればするほど、目の前からスルスと本や言葉が逃げていく。そんな体験をしたことはありませんか?

今回は、『本は読めないものだから心配するな』の著者であり、『星の王子さま』の翻訳者であり、世界中を旅し、詩人としてみずからも言葉を紡ぐ菅さんに、旅と本と詩にまつわる3冊の新著を中心に語っていただきます。

本と言葉の海へと漕ぎ出す旅に、そっと背中を押してもらおう、そんなひと時にしたいと思います。

〈菅さんの本〉  
『本と貝殻』、『一週間、その他の小さな旅』(コトニ社)、  
『エレメンタル—批評文集』(左右社) 他多数

と き 8月6日(日) 昼2時～4時  
ところ 公民館 地下ホール  
定 員 60名(申込先着順)  
申込先 7月12日(水)朝9時～ 公民館☎(572) 5 1 4 1

## 公民館のQ & A

このコーナーでは、公民館について一問一答形式で紹介していきます。今回は、公民館で活動ができない「営利活動」の範囲についてです。

- Q. 公民館の会場はどんな団体なら借りられますか？
- A. ●市内で活動している市民によるグループや会（3名以上、市内在住・在勤・在学の方が8割以上）が会場を無料で利用できます。  
●営利を目的とする活動、例えば企業が行う社員研修や商品説明会などの利用はできません。
- Q. 公民館で、例えばピアノ教室や茶道教室のような「教室」の開催はできますか？
- A. ●「教室」で指導を行う先生や講師等が主催して、参加者を募集したり、参加者から月謝を集めたり、会場予約等の手続きを行ったりする場合は、講師等の「営利活動」と見なされ、公民館では活動できません。  
●公民館では、あくまで市民の自主的な学習活動を援助するために会場提供をしています。市民が仲間を集めてグループや会をつくり、公民館を会場として利用する際に、会則等に基づいて参加者から会費を集めたり、講師等をお招きして謝礼等をお渡ししたりする場合は、「営利活動」とは見なしません。
- Q. 公民館で開催するイベントで、参加費を徴収することはできますか？
- A. ●上記の通り、公民館では「営利活動」と見なされるような活動はできません。参加費の徴収が必要な場合は、イベントや集会の運営に必要な経費等に充当する範囲で参加費等の金額を設定してください。説明が求められた際に、「非営利」であることがわかるよう会計処理をしていただくなどの対応が望ましいです。  
●物品販売等も同様です。市民の学習活動の助けになる学習資料や書籍等の有償頒布等は問題ありませんが、物品購入やカンパが強制されたり、高額になったりすることがないように注意してください。

## 第68回くにたち市民文化祭 —総合美術展のお知らせ—

実行委員会企画「総合美術展」を以下の日程で開催します。会場は公民館です。

◆期間 10月24日（火）～10月29日（日）

募集要項は8月1日（火）以降、次の施設に置いてあります。皆様のご応募をお待ちしています！

### 【募集要項配布場所】

公民館、市役所総合案内、中央図書館、郷土文化館、芸小ホール、福祉会館、北・南市民プラザ、旧国立駅舎



## はじめての銅版画

— Etching Work Shop —

講師 山本 佳奈枝（銅版画家）  
さかた きよこ（銅版画家）

興味はあるけど、難しそう？ どうやって作るのかな？  
そんな疑問に応えながら銅版画創作を楽しむ、初心者向けのワークショップです。銅版画ならではの繊細な線で小さな作品を創ります。集まった仲間とともに作業の時間を楽しみながら、作品を創ってみませんか。出来上がった作品はロビーで展示する予定です。

とき 7月23日、8月6日、20日、9月3日  
いずれも日曜日 昼2時～5時

ところ 公民館 3階集会室・実習室

定員 10名（先着順）

対象 原則休まずに出席できる方、市内在住、在学、在勤の方、はじめて参加する方を優先。

材料費 1,500円（ニードル、銅板、版画紙など）

持ち物 8×10cmの下絵（タテヨコ自由）  
エプロン（よごれてもよい服装）、筆記用具

申込先 7月7日（金）朝9時～ 公民館 ☎(572) 5 1 4 1

銅版画（エッチング）とは、銅板に描いた絵を腐蝕させて版を作り、できた凹部にインクを詰めて紙をのせ、プレス機で刷って作る版画です。



### 公民館運営審議会報告

6月13日（火）第34期第8回定例会を開催。委員14名、館長、職員2名出席。傍聴人6名。

#### 報告事項

○公民館だより編集研究委員会から、過去の公民館だよりについての意見書をふまえ、公運審での編集研究委員会の報告にあり方について、委員で共有したとのこと。  
○社会教育委員の会は、5月より新任期が始まり、教育長よりICT活用について、諮問があったとのこと。東京都公民館連絡協議会からは10月の委員部会研議会について、来月報告予定とのこと。社会教育学習会担当より、3月18日（土）の学習会報告とともに、8月24日（木）に次回学習会を企画

#### 審議事項

○正副委員長から示された市長・教育長への要望書案について、その必要性、代替案などが討議され、継続審議となった。  
○清水館長より、第34期公運審に対し、「公民館の運営や事業に「市民の声」を活かしていくための方法や工夫について」の諮問があり、諮問理由や背景等について質疑があった。次回以降、第30期答申「事業評価のあり方」などの成果や課題等を学ぶこととなった。  
次回7月11日（火）夜7時15分から地下ホール。傍聴歓迎。  
（荒井）

# ひろば



## 国立あひるグループ会員募集

アカペラ女声三部のコーラスです。未経験でも大丈夫。みんなで声を出して音楽を創るのは楽しく、何より心身を元気にしてくれます。会費月3千円。見学歓迎です。  
 日時 毎週金曜日 昼12時半～  
 場所 公民館 地下ホール  
 連絡先 清水(575) 4383

## 書道「楽書会」会員募集

現在は中国や日本の能書家の古典、漢字を中心に練習しています。指導者のお手本もあり添削を受け仲間と楽しく集っています。書道を始めたい方、大歓迎です。  
 日時 毎週金曜日 朝9時～12時  
 場所・連絡先 くにたち福祉会館・老人福祉センター(575) 3221

## クラシックギター初級無料講座

バッハのメヌエットを合奏で練習します。易しい曲です。くにたちギタークラシカ主催。講師は三人のギタリストに師事した会員。9～11月全6回。若干名募集。  
 日時 第2・4金 朝10時～12時  
 場所 東地域防災センターなど  
 連絡先 こみや090(402) 6974

## クローバーオカリナ

オカリナでアンサンブルを楽しんでいる会です。先生の指導日の翌日には自主練習を続けています。一緒にハーモニーを作りませんか。基本ができる方を希望します。  
 日時 第1・3木曜日 朝10時～  
 場所 東福祉館 和室  
 連絡先 川崎(511) 3328

## 卓球会員募集(笑美の会)

指導者のワンポイントレッスンを受けながら、練習しています。明るく、楽しく、健康に!!一緒に卓球しませんか?経験は問いません。  
 日時 毎週土曜日 夜6時半～  
 場所 総合体育館 第二体育室  
 連絡先 岡野(576) 0691

## マインドフルネスを楽しむ会

数々の大企業で取り入れられている瞑想法。集中力アップ、自律神経の安定等々様々な効果があります。どなたでも手ぶらでお気軽にお越しください。参加費無料。  
 日時 7月16日(日)朝10時半～12時  
 場所 公民館 講座室  
 連絡先 酒井080(588) 3095

## 国立で人権を考える会の勉強会

袴田事件から57年を経た今年、再審が開始されます。袴田さんの冤罪が晴れることを願って、金聖雄監督の映像上映と講演、門間幸枝さんの講演を行います。  
 日時 7月16日(日) 夕5時20分～  
 場所 公民館 地下ホール  
 連絡先 明峯080(546) 0817

## 三多摩の地下水汚染を考える

私たちの地域を流れる地下水から、分解されにくい有機フッ素化合物が見つかった。健康に与える影響は?ジャーナリストの諸水裕司さんからお話を聞く。500円  
 日時 7月29日(土) 朝10時～12時  
 場所 国分寺リオンホールB  
 連絡先 伴042(575) 8750

## \*「ひろば」写真募集\*

国立市内の風景や行事などの写真を募集しています。ご協力いただける方は公民館までご連絡ください。

## 9月(ロビー10月分) 会場調整会のお知らせ

申込書のポスト投入期間	7月1日(土)～27日(木)
公用使用の貼り出し	7月11日(火)頃
予約の重なりがあった団体の掲示開始日	7月29日(土) 重なり状況▶
会場調整会	8月5日(土)朝10時～

※会場調整会は朝10時までには受付を済ませてください。

## 「サークル訪問381」絆の会

「絆の会」は、高齢者や市民が安心して暮らせるまちづくり、地域の絆づくりに取り組んでいる市民グループだ。公民館の講座から生まれ、今年で活動10周年を迎える。「高齢社会を支える地域の絆づくりの会」が正式名で、絆づくりの一助として地域の情報紙「絆だより」を2016年より毎月編集発行している。

その紙面には、巻頭コラム、地域や福祉関係の取材記事、受講講座の投稿記事、各団体刊行の冊子や主催イベントの一覧など地域に密着した情報が満載で、読み応えがある。楽しみにしている方も多いただろう。

編集会議も兼ねる月例会には8名の方が参加されていた。みなさん、自由闊達に意見を交換され、楽しくマイペースで携わっている様子が見えがえる。会議後、「はい参考に」とドーンと今までの「絆だより」を目の前に置かれ、20センチをゆうに超えるその厚さに会の歩みを見る思いがした。まさに市内各所を東奔西走され、縦横無尽に各団体・組織とパイプをつくられた証であり、市民の日々の貴重な活動記録ともいえよう。

代表の大井利雄さんは「これまで

で続けてこられたのは、妻と他の仲間のおかげ、とても感謝している。体力が許す限り発行したい」「絆だより」を手にとり、次はどこへ行こうかしらと話している方たちを偶然見かけ、とてもうれしかった」とおっしゃる。

当たり前のように対処が必要なことには自ら立ち上がり、ともに汗をかきながら、長く活動を継続されてきたみなさんのお姿には、ボランティアの底力を感じる。

私にとって、絆の会といえば「絆だより」。縁あって毎月一度手渡していただけることに、改めて感謝の念が湧いた。

日時 例会(第2土曜日) 朝10時15分～12時

場所 ひらや照らす(富士見台 2-38-12)、公民館等

連絡先 大井090(694) 8984

〈文・写真 小林 栄子〉



検討を重ね、毎月400部発行しています

◀こちらからも閲覧可能

